



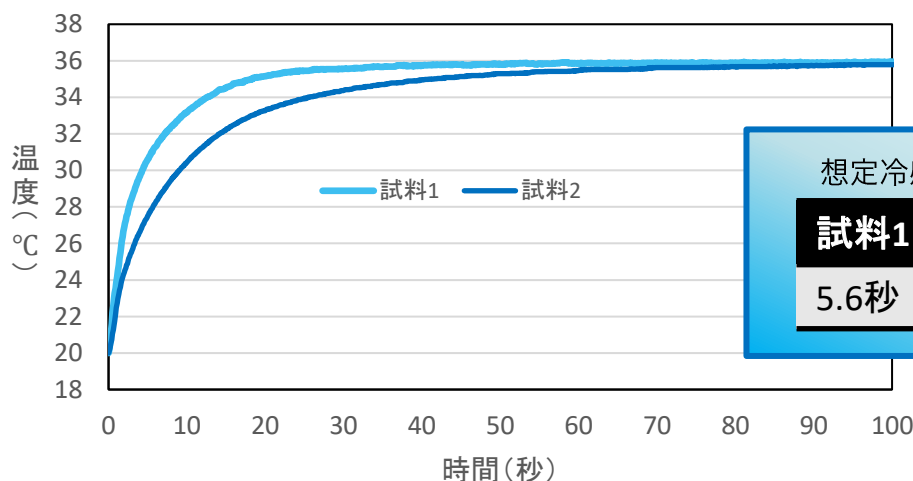
持続冷感効果の評価方法を新たに開発！



近年、「酷暑」と呼ばれるほどの夏の暑さが社会問題となっています。さまざまな猛暑対策グッズが販売されており、常に着用する衣料品や、毎日使う寝具（敷パッドなど）での冷感性能が求められています。冷感関係の試験といえば接触冷感試験がありますが、接触冷感に触れた瞬間のひんやり感のみの評価で、持続性は見ることはできませんでした。繊維製品での冷感の持続性を評価したいという多くのご要望をいただき、新たな試験方法をユニチカゲーメンテック株式会社と共同で開発しました。

繊維製品等の持続冷感性試験 BQE A 045 試験の概要

対象アイテム	繊維製品（衣料品、タオル、敷パッド、枕カバーなど）
試験方法	体温を想定した熱板の上に試験試料を載せ、接触部分の表面温度を測定
試験結果	想定冷感持続時間 [秒] 試料表面温度が34℃以下を維持する時間から、ブランクデータを引いて算出。



機能表示例 「持続冷感」
「吸熱効果によって一定時間の冷たさが感じられます」 など
※環境・使用条件および個人差により効果が低減する場合があるため
ご注意ください。

※の内容を必ず記載することをおすすめしています。



ジェルを用いたパッド、発熱時に熱を下げる目的で
使うシートなど長時間の持続冷感性試験はこちら！

ボーケントピックNo369
[ジェル製品等の持続冷感試験
BQE A 044](#)



持続冷感性の他にも！
猛暑対策商品の評価について

業務案内
[日本も亜熱帯化？！猛暑対策
商品の評価について](#)



上記の内容についてご不明な点等ございましたら、こちらまでお問い合わせください。